

JA全厚連情報



自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」 総会を開催

目 次

□ J A 茨城県厚生連・佐野元会長などが受章 令和5年秋の叙勲・褒章	1
□ 2024 年度診療報酬改定の方角性について研修 厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催	2
□ J A 全厚連から提出された団体要望の対応状況等について意見交換 農民の健康を創る会 総会を開催	3
□ 地域医療を守る病院協議会 要望書の提出 厚生労働省・浅沼医政局長に手交	9
□ 厚生連間の情報共有について協議 厚生連部課長会議を開催	11
□ 基礎編、応用編、経営理論編を開催 厚生連経営管理職層育成研修会	12

・通信員だより

秋田県総合防災訓練に参加して（大曲厚生医療センター）	14
地域医療連携親睦会を開催しました（能代厚生医療センター）	15
白河厚生総合病院附属高等看護学院継灯式開催（白河厚生総合病院附属高等看護学院）	16
J A 福島エルダー交流会でフレイル予防講話（J A 福島厚生連）	17
ドナー休暇制度導入（J A 茨城県厚生連）	18
院内保育所にて地元J Aと「親子いもほり会」を開催しました（相模原協同病院）	19
永年勤続表彰式を開催しました（J A 神奈川県厚生連）	20
管理部総合職新入職員研修会を開催しました（J A 長野厚生連）	21
J A 関連医療機関への「救急・リハビリ医療にかかる助成」目録贈呈式（J A 長野厚生連）	22
令和5年度 医療安全管理担当者研修会を開催しました（J A 長野厚生連）	23
令和5年度 栄養科職員研修会を開催（J A 長野厚生連）	24
内分泌内科 市民公開講座を開催（J A 静岡厚生連遠州病院）	25
国体・障害者スポーツ大会特別写真展を開催（鹿児島厚生連病院）	26



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp
(事業運営支援グループ)
<http://www.ja-zenkouren.or.jp>
編集責任者 中村 純誠



J A茨城県厚生連・佐野元会長などが受章 令和5年秋の叙勲・褒章

政府は11月3日、令和5年秋の叙勲・褒章受章者を発表した。

J A厚生連関係者で受章された方は以下のとおり。

賞 賜	主 要 経 歴	氏 名
旭日双光章	元 茨城県農業協同組合中央会 代表理事長 元 茨城県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会会長	佐野 ^{さの} 治 ^{おさむ}
旭日双光章	元 福島県厚生農業協同組合連合会 経営管理委員会委員	小室 ^{こむろ} 信一 ^{しんいち}
瑞宝小綬章	元 知多厚生病院 病院長	宮本 ^{みやもと} 忠壽 ^{ただひさ}
瑞宝双光章	元 周東総合病院 看護部長	金子 ^{かねこ} 恵子 ^{けいこ}



2024 年度診療報酬改定の方向性について研修

厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催

本会は11月9日、厚生連病院事務部長セミナーをWEBで開催し、21 厚生連から 130 名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院事務部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、今年度は、10月11日と11月9日の2日間で開催した。2日目は、「2024 年度診療報酬改定の方向性」と題して、中林梓氏（株式会社ASK梓診療報酬研究所）が講演を行った。

講演では、次回のトリプル改定に向けた厚生労働省・中央社会保険医療協議会での検討内容について、改定内容の背景や傾向を踏まえて、病院の分類に合わせて中林氏の視点で重要なポイント（地域密着型病院の今後、在宅・介護連携強化など）をお話しいただいた。

救急医療の現状と課題（イメージ）

① 高齢者の増加により、高齢者の救急患者・救急搬送、特に軽症・中等症の患者が増加する。

② 一部受入が少ない医療機関があり、患者の増加に伴い、三次も軽症患者を診療せざるをえず、重症患者の診療に支障を来す可能性がある。

③ 単身の高齢者や要介護者の増加により、退院先が決まらずに下り搬送や退院が滞ることによって「出口問題」が発生する。

初期救急医療
在宅医療（607地区）
休日緊急センター（553力所）

第二次救急医療
病院救急科（398地区、2,723力所）
共同救急センター（14力所）

第三次救急医療
救命救急センター（299力所）
うち、高度救命救急センター（40力所）

救命後医療
退院・在宅・後方病院その他

28 35

©ASK/LINKUP 2023.10.05中医協・入院外来医療等の調査評価分科会（急性期入院医療について（その4））

研修の様子

参加者からは、「現時点での情報が網羅されており参考になった。」「診療報酬改定の方向性について、わかりやすくご講演いただき、大変参考になりました。地域の連携をますます強固にしなければならぬと感じました。」等の感想が寄せられた。

J A全厚連から提出された団体要望の 対応状況等について意見交換

農民の健康を創る会 総会を開催

自由民主党の議員連盟「農民の健康を創る会」は、令和5年11月15日に自民党本部707号室において総会を開催した。本総会には、29名の会員が出席した。

総会では、森山会長があいさつされ、本年度に現地視察を行ったJA愛知厚生連江南厚生病院、JA北海道厚生連旭川厚生病院の関係者に協力いただいたことについて感謝を述べるとともに、前回の総会以降、4名の先生に入会いただいたこと及び役員の異動についての説明があり、新たに事務局次長となられた星北斗議員並びに幹事となられた上月良祐議員が紹介された。



森山会長の挨拶

JAグループからはJA全厚連の長谷川会長、神農副会長、中村理事長、JA全中の藤間常務が出席した。日本赤十字社からは渡部業務執行理事が、済生会からは松原理事が出席した。

1 議事

(1) 農民の健康を創る会現地視察の報告

三ッ林事務局長から、令和5年9月27日にJA北海道厚生連・旭川厚生病院にて、5月31日にJA愛知厚生連・江南厚生病院にて実施した農民の健康を創る会の現地視察について報告があった。

- ① 旭川厚生病院の現地視察へは、野村会長代理、永岡幹事長代理、三ッ林事務局長、北海道選出の東議員、伊東議員、岩本議員、船橋議員の7名が、JA北



三ッ林事務局長の報告

海道厚生連からは西本会長、早川副会長ほか、JA全厚連からは長谷川会長、中村理事長が参加。また、上川地区の行政からは、今津旭川市長、山本東神楽町長、谷鷹栖町長、草野美深町長の4名の首長が、JAから3名の組合長が参加。視察した旭川厚生病院において、意見交換が行われた。

- ② 江南厚生病院の現地視察へは、宮下幹事長、小島事務局次長が、JA愛知厚生連からは長谷川会長ほか、JA全厚連からは山野会長、中村理事長が参加し、視察した江南厚生病院において、意見交換が行われた。

(2) 農民の健康を創る会関係令和6年度政府予算概算要求

厚生労働省及び農林水産省から令和6年度政府予算概算要求の資料が提出された。

(3) 団体要請

JA全厚連から、①「円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応」、②「入院患者有償病床の割合の見直し」について要請があり、それを受け対応状況の説明等について厚生労働省及び農林水産省に説明が求められた。

○ 農民の健康を創る会総会の様子



左から野村会長代理、森山会長、金田会長代行、三ッ林事務局長

2 総会に出席した議員からの意見等



上月幹事

コロナの最初でウイルスの中身もわからなかった頃に、茨城県取手の病院をはじめ厚生連病院に一生懸命対応していただいた。厚労省も評価において貢献度合をしっかりと頭に入れておいて欲しい。

令和6年度の診療報酬改定、トリプル改定については、病院経営にとっても重要だが、日本経済にとっての分水嶺だと思っている。病院においては、人件費をどう措置するかだが。一方、物件費について大阪万博に関する予算が130%と30%程上がってるが、これくらいないと経営ができないとい

うこと。財務省が止めているので、そこは本当によく考えて厚労省と農水省が一緒になって闘っていかないといけない。また、自ずと上昇率が分かる中でマイナス改定という新聞記事が出てくる、データも見たけどめちゃくちゃだ。

地方創生臨時交付金については、揃えようと思っても無理である。本当は、診療報酬改定で手当てしなければならなかった事項だから、今回の診療報酬改定ではしっかりと対応してほしい。

食事療養費について手当いただけるとなると、これは農業にとっては大事なこと。農業が価格転嫁出来なくて困っている中で、食事療養費を上げてもらうというのは、価格転嫁の第一歩になる。

厚生連は、社会医療法人に近い存在ではないかというふうに思っており、社会医療法人には、多くの条件があるわけだが、厚生連の差額ベッドの割合は是非 50% にしてほしい。社会医療法人の※印に当たるものをどういうふうに表現するのかというのは調整がいるかもしれない。



務台幹事

コロナ対策で支給される臨時交付金の使い方は、地方自治の考え方とは異なる原理があってもよい。何%以上はこれについて出すという目途があってもいい。優良事例を推奨しても出してもらえるところはない。最低これ以上は出すというふうにした方がいいと思う。

有償病床基準については、何故 50% と 30% とに分けているのかよくわからない。50% なら 50% で統一するということも必要ではないか。



石川議員

有償病床の要件について、地域の医療機関が一体となって機能を補い合うような医療体制を地域でやっている中で、こういった形で 50% と 30% と割合を区別することについてはナンセンスだと思う。基準は 50% 以下に統一する必要があるだろうと思う。



星事務局次長

地方創生臨時交付金について、ずっとやり続けてきて、いまだに桁が違いくらいの補填率というのは機能していなかったことを認めざるを得ないんだと思う。基準を示すなら基準を示すと、そうしないと交付金については、首長の好きに使える一方でこういうベーシックなところにお金来ないという非常に構造的というか、機能的な問題をはらんでいる。

個室について、特に中山間地域、JA の病院が支えているような地域においては人口減もあり、病床の再編ということもあると思う。その時に思い切った病棟の再編がされるためにも、例えば 6 床室を半分に切って 2 床

室を二つ作るという、実際は2床減るけれども2床室で個室料が取れるとか、そういう具体的な事例があるはずである。その結果として、ベッド数の削減ということにつながるが、そういう経営判断をできるような取扱いとして、この50%の見直しをぜひ実現して欲しい。

**藤木事務局次長**

地方重点支援地方交付金について、40%台の支援をしていただいている県があるかと思えば、一方では一桁台にとどまるような格差が生じている中で、優良事例を提示しながらということであったが、40%なら40%みたいな指針を示しながら各県に落としていかないと、各県の財政事情もある中で、国費を使っていく以上、一定のルールとたたき台をはっきりと出していくことがないと、公的な価格を引き上げられず、コスト転嫁ができない病院の体制では、非常に経営が厳しくなると思うので、今一度検討をお願いしたい。

**船橋議員**

地方創生臨時交付金は、都道府県は医療・介護あるいはLPガスといった分野に重点化して配分されていくはず。各先生方からお話があったような配分割合をあらかじめ決めるというようなことにしておかないと、実際には、行き届かない可能性があるかと思うので、検討よろしくをお願いしたい。

**伊東議員**

厚生連病院でたくさんのお医者さんを雇用されていると思うが、この残業規制によって如何ほど足りなくなるのか、それへの対応というのは、今から考えることとなるのか、その点について聞かせてほしい。

コロナ前に地域医療制度改革ということで、病院の統廃合などが議論されていたが、コロナでストップしたままとはならないのではと思うが、その点についてもぜひ見通しを聞かせてほしい。

**三ッ林事務局長**

現在、厚生連病院でも、コロナ前と比べ入院患者が8割程度に落ち込んでしまっている一方、人件費はコロナ対応があり減らすことができず、そのことが経営状態の悪化に影響していると聞いている。このような中で、コメディカルに対する処遇について、今後どのように対応していくのかについて説明をお願いする。



金田会長代行

地元の秋田県では、厚生連が地域の基幹病院となっており、新型コロナの対応においても大きな役割を果たした。感染症法の改正により、令和6年度も厚生連病院の役割が一層重要になるため、将来の感染症に対応できる個室の整備が急務である。有償病床の割合について、この財政当局との見直しの折衝というか、これは今どういう状況にあるのか、見通しだけでも説明をお願いします。



3 総会のまとめ



診療報酬がどういう形で決着するかということで、頑張らなければいけないと思う。財務省がかなり厳しい考え方を持っていることは、実態と少しかけ離れているのではないかと申し上げたいような節もあるので、皆でしっかり頑張ることが大事なことだと思っている。

地方創生臨時交付金の配分のあり方については、自治体は自治体の考え方でやられるということもあるが、もう少し国の考え方、国の方針が自治体に正しく理解されて予算が組まれるということも大事なことだと思うので、よろしくお願いをしたいと思っている。

今年は、年末にまた皆さん集まってもらい、頑張らなければいけない場面が出てくるかもしれないので、我々も心しておこうと思うが、よろしくお願いします。

農民の健康を創る会 総会 －要望事項－

令和 5 年 11 月 15 日

J A全厚連

1. 円安・原油価格の高騰等による物価高騰への対応について

厚生連病院の令和 4 年度の医業収入は増加したが、特徴として、円安・原油価格の高騰による物価高騰により、水道光熱費、診療材料費が大幅に上昇した。

医療は、公定価格であることから、光熱費や資材等の高騰が価格に転嫁できず、経営を圧迫することになる。

政府は、「電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金」を創設し、医療等に対する支援を推奨しているが、令和 4 年度の本会調査によれば、都道府県間で格差が認められた。

このため、医療機関が物価上昇に対応できるよう診療報酬の引上げを含めて国へ必要な財政措置をお願いする。

2. 有償病床に係る法人税非課税措置要件の見直しについて

厚生連病院は、公的医療機関として新型コロナウイルス感染症患者の受入れに加え、発熱外来の設置、コロナワクチンの職域及び自治体接種など、積極的に協力してきているが、新型コロナ患者の受入れに当たっては、新型コロナ拡大時に個室が不足し、一般患者の受入れにも影響が生じた。

このため、法人税非課税措置に係る厚生連病院の有償病床（差額ベッド）について、改正感染症法に基づき病床確保に係る一定の取組みを行う厚生連は、現在の差額ベッド割合に係る要件（30%以下）を他の公的医療機関等と同様の差額ベッド割合で運用できるよう見直しをお願いする。

以上

地域医療を守る病院協議会 要望書の提出

厚生労働省・浅沼医政局長に手交

本会が参加する地域医療を守る病院協議会は、11 月 15 日に武見敬三厚生労働大臣あて「地域の医療機関における物価高騰への支援に関する要望」を厚生労働省・浅沼医政局長に提出した。

昨今の物価高騰は、国民生活に影響を及ぼしているとともに、地方都市やへき地、離島、小規模市町村などに所在する医療機関においても、電気・ガス等のエネルギー価格、食材料費、医療材料費等が大きな負担となっている。他業種では販売価格への価格転嫁で対応が可能であるが、医療機関の収入の多くは国が定める診療報酬（公定価格）であるため医療サービスに価格転嫁ができず、厳しい状況が続いており、もはや医療機関の経営努力のみでは対応することが困難な状況であるため、要望を行った。要望書は次ページのとおり。



要望書提出の様子

（左から全厚連・中村理事長、全国自治体病院協議会・小熊会長、浅沼医政局長、須田審議官（保険局））

「地域医療を守る病院協議会」

いずれも地方に多くの病院を有している団体から成り、地域における医療を守るため抱える共通の課題について議論、意見交換を行うとともに、提案等を行うことを目的として平成 29 年 9 月 28 日設立

令和5年11月15日

厚生労働大臣
武見敬三様

地域医療を守る病院協議会 議長 小熊 豊



全国厚生農業協同組合連合会

代表理事会長 長谷川 浩敏

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会

会長 小野 剛

一般社団法人日本慢性期医療協会

会長 橋本 康子

一般社団法人地域包括ケア病棟協会

会長 仲井 培雄

一般社団法人日本公的病院精神科協会

会長 中島 豊爾

公益社団法人全国自治体病院協議会

会長 小熊 豊

地域の医療機関における物価高騰への支援に関する要望

地域医療を守る病院協議会は、いずれも地方に多くの病院を有している団体から成り、地域における医療を守るため抱える共通の課題について議論、意見交換を行うとともに、提案等を行うことを目的としております。

さて、昨今の物価高騰は、国民生活に影響を及ぼしているとともに、地方都市やへき地、離島、小規模市町村などに所在する医療機関においても、電気・ガス等のエネルギー価格、食料費、医療材料費等が大きな負担となっております。

他業種では販売価格への価格転嫁で対応が可能ですが、医療機関の収入の多くは国が定める診療報酬（公定価格）であるため医療サービスに価格転嫁ができず、厳しい状況が続いており、もはや医療機関の経営努力のみでは対応することが困難な状況であるため、下記のとおり要望いたします。

記

地域の医療機関が諸物価の高騰による医療提供コストの上昇に対応できるよう、令和5年度中に必要な財政措置を講じるとともに令和6年度には診療報酬を引き上げること。

以上

厚生連間の情報共有について協議

厚生連部課長会議を開催

本会は11月21日に、東京・大手町のJAビルカンファレンスセンターにおいて、厚生連部課長会議をWEB併催した。

会議では、(1) 厚生連からの照会事項の記録の共有、(2) 各厚生連におけるハラスメントに係る相談窓口の提供依頼、(3) 会員厚生連間における情報の共有、(4) 厚生事業に係る要請活動、(5) 医療用物資の国備蓄品の売却事業、(6) 厚生連の令和5年度上半期経営収支状況、(7) 重点支援地方交付金の活用、(8) 法人税非課税措置に係る要件管理の徹底一等について協議・報告した。

(1) については、本会では、各厚生連からの税務・会計、個人情報保護法関連等の照会の対応を行っているが、厚生連からの「照会・回答内容を共有して欲しい」との要望を踏まえ、会員サイトでの情報共有を進めることで了承を得た。

(2) については、本会ホームページにお寄せいただくご意見の中には、ハラスメントに対する相談窓口に係る照会も含まれていることから、各厚生連のハラスメントの相談窓口を本会へ報告いただくことで了承を得た。

(3) については、本会では、会員サイトにおいて、掲載希望のあった厚生連の業務報告書・事業計画書・人事異動の通知等の共有を行っていたが、厚生連の事務負担の軽減の観点から、今後は、全ての厚生連を対象に進めることで了承を得た。

(4) に関して、JA厚生連グループの令和6年度税制改正として「有償病床に係る法人税非課税措置要件の見直し」を要望しており、12月末の政府税制改正大綱の決定まで引き続き要請等を行っていくことを報告した。

また、長嶋氏（厚生労働省医薬局総務課電子処方箋サービス室課長補佐）が電子処方箋について説明を行った。

厚生連からは、電子処方箋の導入に向けた現場の課題として、「電子処方箋に関するシステム導入費用」、「マイナンバーカードやHPKIカードの運用」「カードリーダーの運用」などの意見が述べられた。

基礎編、応用編、経営理論編を開催

厚生連経営管理職層育成研修会

本会は厚生連経営管理職層育成研修会の「基礎編（第2クール）」（10月26～27日）、「応用編（第2クール）」（11月13～14日）、「経営理論編（2日目）」（10月25日）をWEBで開催した。基礎編に18厚生連・56名参加、応用編に11厚生連・21名参加、経営理論編に10厚生連・21名が参加した。

厚生連経営管理職層育成研修会は、基礎編（全3クール）と応用編（全2クール）に階層化して開催しており、応用編では、基礎編の受講を終えた方が財務会計と管理会計の応用レベルの知識の習得を図る。

基礎編の第2クールでは、財務分析の知識について、以下の内容で行われた。

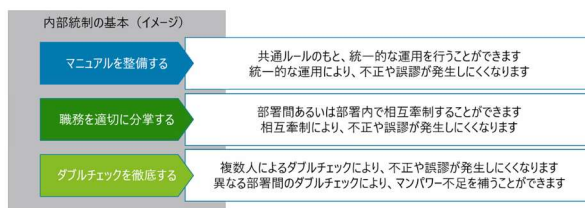
【厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編）】

	研修内容
第2クール (10月26～27日)	財務分析の知識 ・財務分析の前提と内部統制 ・財務分析の基礎Ⅰ ・財務分析の基礎Ⅱ ・経営指標の基礎 ・分析結果の活用方法

「事故＝不正・誤謬」を起こさないために、内部統制を構築する必要があります

財務報告の信頼性を達成するための内部統制

不正が行われていることにより、あるいは会計処理を誤ったことにより、計算書類に正しい数値が反映されていない場合、「財務報告の信頼性」という目的は達成できません。
「財務報告の信頼性」という目的を達成するため、内部統制が整備・構築され、日常的に適切に運用される必要があります。

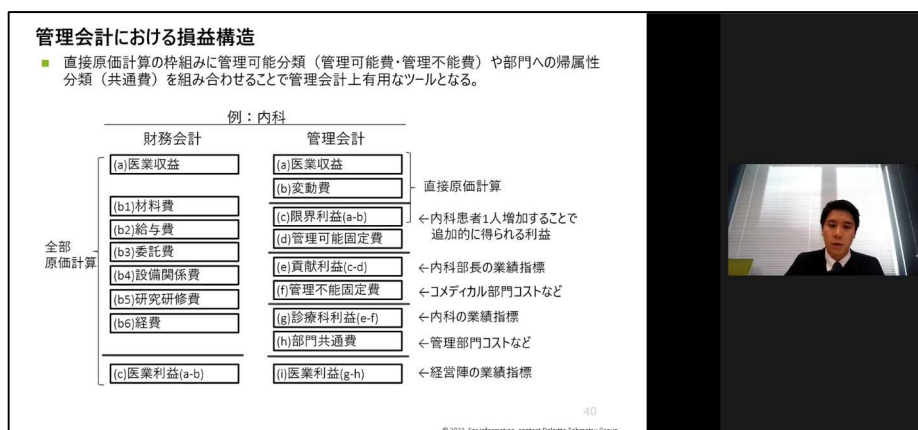


研修の様子

応用編の第2クールでは、管理会計の応用について、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（応用編）】

	研修内容
第2クール (11月13～14日)	管理会計の応用 ・事業計画の重要性 ・財務会計と管理会計の違い ・診療科別原価計算 ・経営指標の読み解き方 ・設備投資意思決定の応用



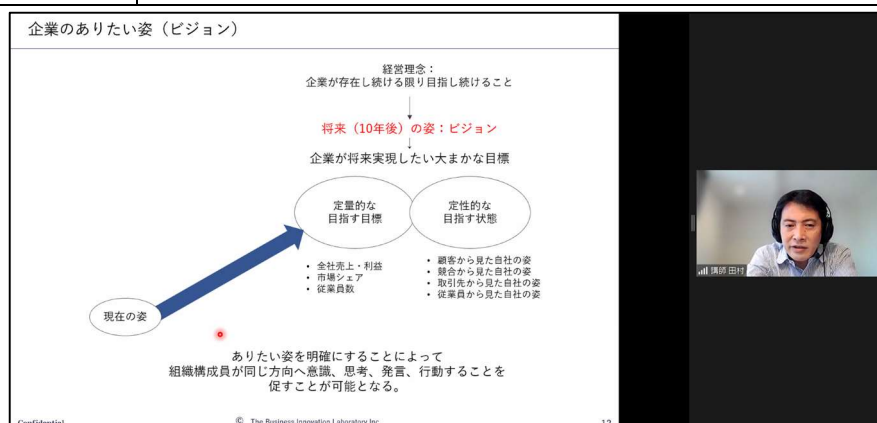
研修の様子

経営理論編（年3日）については、病院・健診センター等施設単位の経営に限らず、厚生連全体を1組織としてマネジメントする職員を育成するため、令和3年度より開催している。

2日目は、ビジョンおよびビジョン実現のための戦略・経営計画について、以下の内容で行われた。

【厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）】

	研修内容
2 日目 (10 月 25 日)	ビジョンおよびビジョン実現のための戦略・経営計画 【講義】 - 経営ビジョン - ビジョン実現への戦略 - 戦略実行のための計画 【ワーク】 - 戦略基本方向設定



研修の様子

参加者からは、「他厚生連とのディスカッションもとても有意義であった。」「もっと他厚生連の方とディスカッションをしたかった。」「ビジョンや目標から発想する習慣をつけたい。そのうえで、達成に向け SWOT 分析を活用してみたいと感じた。」等の感想が寄せられた。



秋田県総合防災訓練に参加して

(J A秋田厚生連・大曲厚生医療センター)

毎年各市町村持ち回りで開催される秋田県総合防災訓練が今年度は大仙市で開催されました。市内で震度6強の大規模地震が発生し、土砂崩れ、建物倒壊により要救助者が多数見込まれる状況を想定し、土砂災害現場応急救護所設置訓練、孤立住民救出訓練、避難所開設訓練等が市内各地で行われる中、大曲厚生医療センター（三浦雅人病院長）も災害拠点病院として訓練会場となり、多数傷病者受入訓練を行いました。

地震により、軽症から重症まで多数の傷病者が来院するという想定で、院内災害対策本部の設置、県や消防、DMAT（災害派遣医療チーム）と連携し、災害現場から搬送されてくる傷病者の受入、傷病者のトリアージ（患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うこと）、重症度毎に色分けしているエリアにおける応急処置、EMIS（広域災害救急医療システム）を用いた転院調整等の訓練を行いました。

他機関の方が実際に来院し当院内で活動することや、当院職員が他機関と実際に連絡調整を行うことは、このような大規模な訓練でなければ実施が難しいため、今回非常に貴重な経験をさせていただきました。当院は有事の際に地域を守る災害拠点病院として機能を果たすため、災害発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう今後も訓練を重ね、災害医療体制の整備に努めてまいります。



防災訓練の様子

(淡路明美通信員)

地域医療連携親睦会を開催しました

(J A秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、9月7日、能代市のプラザ都にて『能代厚生医療センター 地域医療連携親睦会』を開催しました。

新型コロナウイルスの影響により約4年ぶりの開催となり、地域の医療機関（歯科含む）から29名、当院から医師・コメディカル・事務職員32名が出席しました。能代山本地域だけでなく、医療圏である青森県深浦町からも遠方にも関わらず参加いただくなど、大人数での会となりました。

今回は久しぶりの開催ということもあり、特定のテーマを設けず、当院の整形外科医師・呼吸器外科医師・研修医がそれぞれ演題発表を行いました。まず、整形外科からは『椎間板内酵素注入療法について』と題した治療法に関する演題、次に、呼吸器外科からは『呼吸器外科手術の現状～肺癌診療を中心に～』と題した診療に関する演題、そして、研修医からは『広範な皮下出血で早期に紹介され治療が奏功した後天性血友病A』と題した血液内科疾患の事例に関する演題が発表されました。

発表後は意見交換の時間を設け、普段は書面上のやり取りがほとんどの医療機関と直接顔を合わせて、より一層の連携を図るために、双方の意識を再確認することができる貴重な機会となりました。出席者からは「また次回も参加したい」との声も多くあり、盛況のうちに終えることができました。

今後も顔の見える関係構築や、よりスムーズな地域医療連携の構築に繋がるような取り組みを継続して行っていきたいと思っています。



親睦会開催の様子

(淡路明美通信員)

白河厚生総合病院附属高等看護学院継灯式開催

（J A福島厚生連・白河厚生総合病院附属高等看護学院）

J A福島厚生連白河厚生総合病院附属高等看護学院（前原和平学院長）は10月28日、同学院講堂で継灯式を行いました。

保護者と病院関係者、そして4年ぶりに在校生も式典に参加し見守るなか、第63回生（1年生）31名はナイチンゲール像から灯火を受け継ぎ、ナイチンゲール誓詞を唱えました。

前原学院長は「みなさんのなかにある炎が揺らぐことのないよう強い心を育み、いつでも変わらない温かい心で患者さんに接することができるよう、これからの二年間半の学院生活で努めてまいりましょう。」と挨拶を述べ、J A福島厚生連高久忠代表理事理事長、白河厚生総合病院大木進司院長、白河厚生総合病院鈴木文子看護部長が挨拶を述べました。臨地実習指導者代表 白河厚生総合病院看護師の佐藤美鈴さん、学生自治会代表の町田麗奈さんが励ましの言葉を贈り、1年生代表芳賀愛里さんがお礼の言葉を述べました。白河厚生総合病院看護部会の坂本紅美子会長より1年生代表村元聖羽さんに記念品が贈呈されました。

継灯式を終え、1年生は11月から始まる本格的な実習を前に看護師になる決意を新たにしました。



継灯式の様子

（佐藤剛通信員）

J A福島エルダー交流会でフレイル予防講話

(J A福島厚生連)

J A福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）では10月30日、福島市のJ A福島ビルで開催されたJ A福島エルダー交流会において、J A福島厚生連の鹿島厚生病院（渡邊善二郎病院長）に勤務するリハビリテーション科主任技術者 小豆畑健が講師を務めた講話が行われました。県内J Aのエルダー部員ら約90人が参加しました。鈴木一枝副会長が「再会を楽しみにしていました。おしゃれで長生きする為に一緒に学ぼう」とあいさつをしました。

「フレイル予防について～心とからだの健康について～」と題して、フレイル予防をテーマとして、フレイル予防、転倒予防、腰痛、肩こり、膝痛についての講話と、合間に簡単な体操として、下半身を中心とした転倒予防体操と、上半身を中心とした腰痛、肩こり予防体操を行い、参加者も真剣に取り組んでいる様子でした。

J A福島厚生連では、これからも健康教室や出前講座等を通して、農家組合員・地域住民に貢献できるように努力していきたいと思えます。



転倒予防体操に取り組む参加者

(佐藤剛通信員)

ドナー休暇制度導入

(JA茨城県厚生連)

JA茨城県厚生連（長谷川博史・代表理事理事長）では、職員約4,000人を対象に「ドナー休暇制度」を導入しました。同制度は、公益財団法人日本骨髄バンクに登録しているドナーが、骨髄・末梢血管細胞の提供のために必要な通院や入院のために使用する休暇について、自身の有給休暇を使用するのではなく、職場が特別休暇として別途付与することで心理的・肉体的負担の軽減を図る制度です。

全国で導入している企業・事業者は約780社、そのうち、茨城県は5社（2023年10月13日現在）であり、県内の医療機関としては2例目となります。

日本では、毎年約1万人が白血病などの血液疾患を発症しています。そのうち、同バンクを介し移植を必要とする患者は毎年約2,000人近くに上ります。

しかし、実際に移植を受けることができるのは1,200人程度です。その主な要因としては、選ばれたドナー候補者のうち約6割が「仕事への影響があると思うため」、「仕事の都合がつかない」などの理由で提供を辞退していることが挙げられています。そのため、適切なドナーが決まらず移植の機会を逸する患者、または亡くなってしまう患者がいます。

このような背景を踏まえ、提供がスムーズに行われるようにと本会も令和5年10月に同制度を導入しました。これについて、長谷川博史代表理事理事長は、「医療を提供するだけでなく、こうした組織としての体制整備を通して社会へ貢献し、一人でも多くの患者の命が救われることを願いたい」と話しています。



ドナー休暇制度 POP 設置写真

(酒井一彦通信員)

院内保育所にて地元 JA と 「親子いもほり会」を開催しました

（JA神奈川県厚生連・相模原協同病院）

令和5年11月2日に相模原協同病院（渋谷明隆病院長）は、院内保育所にて「親子いもほり会」を開催しました。みんなで植えたさつまいもの苗が大きく成長し、自分たちの手で収穫することで、土の中でのさつまいもを観察したり、収穫後に味見をすることにより、全身で秋の自然を感じることができます。また、栽培活動を通して五感を刺激する事で「食」に対する興味や関心、豊かな心を育み、育てる楽しみや、食べる楽しみにつながるきっかけになればと思います。JA相模原市の職員の方々も来園し、親子と一緒にさつまいも堀りを楽しみました。

今年は、夏に猛暑日が続いたり、ゲリラ豪雨が何度もあったりで、収穫量は去年の1/5ほどになってしまいましたが、親子で掘ったさつまいもの味はきっと格別であったと思います。



0、1歳児クラスの様子



2歳児クラスの様子

（生沼貴彦通信員）

永年勤続表彰式を開催しました

(J A神奈川県厚生連)

10 月 21 日に神奈川県厚生農業協同組合連合会（高野靖悟・代表理事理事長）は、J Aグループ神奈川合同で令和 5 年度永年勤続表彰式を開催いたしました。コロナ禍の影響で 4 年振りにグループ全体での開催となった今回は、当会から 55 名が参列し慶びの日を迎えることができました。

来賓の大川顧問から祝辞を賜り、代表者が平本会長から表彰状を授与されました。

また、祝宴も催され、授賞式では神妙な面持ちだった受賞者も笑顔を見せるなど、長年苦楽を共に過ごしてきた仲間たちと充実した時間を共有していました。



平本会長から表彰される厚生連の代表者

(生沼貴彦通信員)

管理部総合職新入職員研修会を開催しました

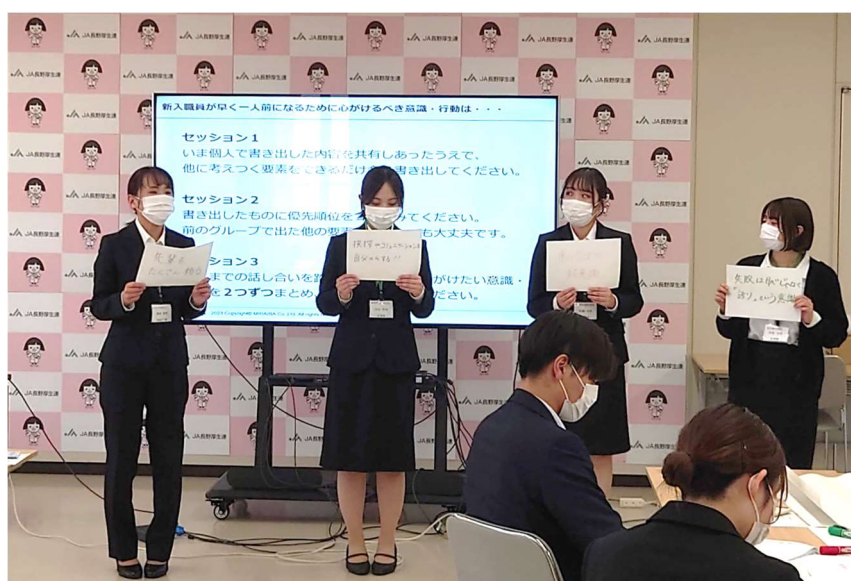
(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は10月18日に第2回管理部総合職新入職員研修会を開催し、今年度入職した総合職職員7名が参加しました。この研修は「社会人としての心構え、基準行動、接遇ビジネスマナーを身に付ける」「コンプライアンスの重要性を理解する」ことを目的としています。参加者は事前に、Kカレッジのeラーニングで学習した上で研修に参加します。

当日は講師に、株式会社日本経営主査の田中 梨央氏を迎え行いました。研修内容としては入職してからこれまで業務を行ってきたなかで自分自身の現状の棚卸しをするとともに「これから自分がどのように仕事に向き合っていきたいか」「新人としての残り半年間、どのような目標を持って、基準行動の中で何を重点的に実践するか」をディスカッションしました。

参加者からは「印象に残っている上司の行動を振り返った時に、共通点を見出すことで自分の指標になり、自分が教えてもらう側の時に報告や感謝を伝えていくことの重要性に気づけた」「今を見つめ直す事で現在の苦手な業務、出来るようになった業務が明確に分かるようになった。今後の業務に対して苦手なことに目を向けていこうと思った」などの声が寄せられました。

同期とは久しぶりの再会となり、休憩時間中はお互いの近況報告等の話で盛り上がりました。次回は3月に開催予定となっています。



研修会の様子

(山岸愛通信員)

J A 関連医療機関への 「救急・リハビリ医療にかかる助成」 目録贈呈式

(J A 長野厚生連)

全国共済農業協同組合連合会による令和 5 年度 (2023 年度) J A 関連医療機関への救急・リハビリ医療にかかる助成の目録贈呈式が 11 月 6 日、J A 共済連長野県本部において執り行われました。

この助成事業は全国共済農業協同組合連合会により社会貢献活動の一環として 2003 年度から続けられており、交通事故被害者の救命や社会復帰支援を目的に J A 関連医療機関の救急医療機器、リハビリ器具等の購入に対し財政支援を行うものです。



目録贈呈の様子(左から米久保本部長、清水代表理事専務理事)

はじめに、米久保 隆 J A 共済連長野県本部長から「今後、少子高齢化と言われていなかで地域における医療体制が益々重要性を増すと思われます。厚生連の果たすべき役割は、一層地域において重要な部分になり、地域のライフラインのひとつになればと思います。厚生事業と共済事業は一体的な事業ですので、地域医療に邁進して頂ければと思います」と挨拶されました。

また、清水勝彦専務理事は「長きに渡り、厚生連の医療機器に対するご助成頂いておりますことに心から感謝を申し上げます。ご助成を頂くことで医療現場のニーズが一步前進したという思いであり、またそのことが緊急医療の充実、質の向上であり、患者サービスの向上に繋がるのではないかという思いです。多くの人の救命に役立てたいです」とお礼の言葉を述べました。

今年度は、長野松代総合病院が腹腔鏡手術システム (内視鏡システム)、南長野医療センター新町病院が全身用 X 線 CT 診断装置 (C T スキャン)、富士見高原医療福祉センター富士見高原病院が生化学・免疫インテグレーション装置 (生化学自動分析装置) とセントラルモニタ (患者監視装置) の助成を受けました。

(山岸愛通信員)

令和5年度 医療安全管理担当者研修会を開催しました

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は、10月25日に医療安全管理担当者研修会をオンラインで開催しました。この研修会は、医療安全管理担当者の知識向上や多角的な視点を持つことを目的として毎年開催しており、各事業所の医療安全管理担当者ほか、医師や看護師など様々な職種から200名を超える職員が参加しました。

講師に早稲田大学大学院法務研究科の和田仁孝教授をお迎えし「医療メディエーション 対話と関係調整のモデル」と題してご講演を頂きました。

医療メディエーションとは、患者さんと医療者が向き合う場を設定し、対話を促進することを通して関係再構築を支援する仕組みのことです。講演では、医療メディエーションの知識を深めるために「医療事故当事者の心情を知ること」「責任承認と共感表明が重要であること」「メディエーションの手法は病院内の対話文化の向上にもつながること」などについて和田先生の体験談も交えながらお話して頂きました。

講演会后、参加者からは「医療メディエーションの役割や重要性について理解できました」「医療メディエーションのスキルを向上させ、患者さんや患者さんご家族、医療者とのより良い関係構築に取り組んでいきたいです」「和田先生の講演は、聞きやすく分かりやすいためとても勉強になりました」などの声が多く寄せられ、目的に則した実りある研修会となりました。



研修会の様子

(山岸愛通信員)

令和 5 年度 栄養科職員研修会を開催

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連（洞和彦・代表理事理事長）は11月21日、令和5年度の栄養科職員研修会をオンラインで開催しました。今年度で18回目を迎えるこの研修会は、栄養科職員のスキルアップおよび情報交換と情報共有を目的に、年1回開催しています。当日は、県内当会事業所の栄養科職員50人が参加しました。当番事業所の北アルプス医療センターあづみ病院（畑幸彦統括院長）の栄養科・赤羽知美科長代理を中心に講師の選定、企画・検討を行い、今年度は各事業所からの事例発表と外部講師による講演の2部構成で行いました。

はじめに、各事業所から「厨房で実践している業務効率」について発表いただきました。各事業所での慢性的な人員不足に対する業務シフトの工夫や業務の負担軽減に対する業務改善の取り組み事例等、多くの課題が聞かれました。

また、講演では株式会社マルゼン コーポレートシェフでチーフの西岡忠昭氏を講師に迎え「低予算でできる人材不足対応と業務効率化について」講演をいただきました。低コストの調理備品等を使用することにより効率化や省力化、作業時間が短縮される省エネ効果等に関する紹介をいただき、熱心に聴講されている姿が見られました。

参加者からは「各事業所の状況等が知れてよかった」との感想が多く聞かれたほか「さまざまな苦勞や対策などが聞けて良かった」「他事業所の取り組みを聞くことができ、作業効率の見直しが更に必要とわかった」などの意見もあり、有意義な研修会となりました。



研修会の様子



西岡氏による講演

(山岸愛通信員)

内分泌内科 市民公開講座を開催

(J A静岡厚生連・J A静岡厚生連遠州病院)

J A静岡厚生連遠州病院（大石強病院長）では、10月13日ホテルコンコルド浜松にて内分泌内科 市民公開講座を開催し、約200名の方たちが参加されました。

特別講演では「やらな、しゃーない！1型糖尿病だからこそ僕ができたこと」と題し、元阪神タイガース投手 岩田稔氏にご講演頂きました。高校2年生よりエースとして活躍するも、ウイルス感染が原因で1型糖尿病を発症しましたが、逆境に負けない不屈のメンタルで大学、そして阪神タイガース入団を果たしご活躍されました。プロ引退後は1型糖尿病の認知、根治に向けた啓発活動を精力的にされており、1型糖尿病を通してえた経験についてご講演をいただき、会場の聴講者も大変勇気づけられる内容で、大盛況での終演となりました。



講演の様子

(望月俊宏通信員)

国体・障害者スポーツ大会特別写真展を開催

(JA鹿児島厚生連・鹿児島厚生連病院)

10月7日から17日に特別国民体育大会、28日から30日に特別全国障害者スポーツ大会が鹿児島県で開催され、県内各地での熱戦が繰り広げられました。鹿児島県の地方紙、南日本新聞では、選手の活躍のみならず多くの関連する記事や写真が紙面を賑わせました。

プロのカメラマンが撮影する臨場感溢れる写真は見る者に感動を与えてくれます。「あの感動をもう一度！！燃ゆる感動かごしま国体、かごしま大会特別」を南日本新聞社の協力のもと鹿児島厚生連病院（徳重浩一病院長）の1階ホスピタルモールで開催しました。紙面を賑わせた写真をA3サイズに拡大したパネル約50枚を展示し、患者さんや健診受診者をはじめ多くの来院された方に観ていただきました。アスリートの気迫あふれる表情や勝利の喜びに満ちた表情の写真は患者さんのみならず多くの方に元気を与えられたのではないかと思います。今後もホスピタルモールを活用し、癒しの空間の演出や情報提供につとめてまいります。



写真展の様子

(下野聖南通信員)